Small-Urban-Spaces 内外の行為からみた SUS 領域の形成 FORMATION OF SUS-TERRITORIES FROM VIEW POINTS OF PEDESTRIAN BEHAVIOR IN SMALL-URBAN-SPACES

近江 隆*, 北原 啓司**
Takashi OMI and Keiji KITAHARA

We already studied on SUS (Small-Urban-Spaces), form and formative factor in preceding paper. In this paper, we analyze pedestrian behavior in SUS and frontage street, and deal with possibility of SUS, private territory, playing important role as openspaces for people by interaction with street, public territory.

Scale and form of SUS have an effect on pedestrian behavior in relation to presence and situation of sales wagon or signboard in SUS and street furniture. And they form Semi-Private spaces in street and Semi-Public spaces in SUS, and SUS-Territory make its appearance. This movement affect frontage street and lead to public behavior, what is called SUS-Effect, and extension of SUS-Territory have an effect on street activity.

Keywords : Small-Urban-Spaces, setback, Semi-Private, Semi-Public, openspaces

スモールアーバンスペース, 壁面後退, セミ・プライベート, セミ・パブリック, 空地

1. 研究の目的

近年, 地価の高騰が大きな社会問題となっているなか, 都心部では高密度化・高層化が進んでおり, それに伴って欧米のようにオープンスペースを新たに設置することは困難な状況にある。また, 個々に建設される建物の内部空間は, 高度な建築技術により計画的に熟慮されているのに対し, 敷地内の外部空間は単に残余空間として扱われてきている。このような状況のなかで, 総合設計制度に基づく公開空地等が見られるようになり, それらの実態等については研究されているものの, オープンスペースとしての効果についてはそれほど解明されておらず^(註1), 結果的に容積率緩和のための手段としての側面のみが強調される形となっている。

そこで, 先の報告において, 都市内の小公園や公開空地等のオープンスペースの有効性を認めつつも, 私的な建物の建設とともに生み出されてくる建物および敷地内にあるオープンスペースを「Small-Urban-Spaces (以下 SUS)」と定義し, 仙台市中心部商店街の調査結果からその形態と形成要因について論じた^(註2)。

実際の街路には大小様々な無数の凹凸 (SUS) が存在しており, その分布状況や個々の SUS の空間形態は,

それぞれの街路の特性を示す有効な分析指標となること が明らかにされたが, このような SUS の存在は, SUS 内外で展開される人々の行為を大きく左右し, 街路上における淀みや賑わいなどの様相の差を引き起こすものであると考えられる。

ここでは, 私的領域の一部である SUS が街路と接することによって, 公的領域の広がりや SUS 内に誘引する一方, 私的領域の街路への進出を同時に成立させる, SUS と街路の相互作用を, SP 化 (SPu 化・SPr 化) という概念^(註3)を用いて記述し, SPu 化および SPr 化の交換関係の成立として明らかにする。

そこで, 特に本論では, SUS と街路の歩行者とが作り出す空間パターン, 領域性とその意味・役割に, 歩行者の行為面から着目し, 私的空間としての SUS が独自に持つ空間の意味と, 公的空間との相互作用の上に形成される機能の誘引・発生, 新しい領域 [SUS 領域] の形成を明らかにするものである。

2. 課題と方法

本報告は, SUS 領域が形成されると考えられる範囲, すなわち SUS の内部および前面街路上の人々の行動の

* 東北大学工学部建築学科 助教授・工博

** 東北大学工学部建築学科 助手・工修

Assoc. Prof., Dept. of Architecture, Faculty of Engineering, Univ. of Tohoku, Dr. Eng.

Research Assoc., Dept. of Architecture, Faculty of Engineering, Univ. of Tohoku, M. Eng.

種類および位置、行為者の属性、行為に関与したもの(要素)、および動線を一定時間内にトポロジカルな関係として地図上に記録し、図-1に示すような『行動観察マップ』^{注4)}の分析から、SPu化・SPr化の実態を分析するとともに、SUS規模の拡大にともなう、SUS領域の外延化あるいはSUS効果^{注5)}とも呼ぶべき現象を明らかにする。

なお、本報告は、仙台市における調査結果(調査No.2)をもとに分析したものである^{注6)}。また、SUS領域内の場所性および領域形成と構成要素との関係性については、中規模以上のSUSを中心に実施した横浜市・吉祥寺市の調査結果を加えて、さらに分析を進めており、続報で詳細に報告する^{1)~8)}。

図-1 行動観察マップ (1/500)

(1) 調査方法

仙台市一番町一番街、一番町4丁目商店街、大町商店街および一番町サンモールの一部店舗を調査対象として、各街路とも晴天または曇の日(平日)の午後2時から4時に、1か所10分間の観察調査を実施し、対象SUSの内部および前面街路において発生する行為の種類、行為者の動線・属性、その他気づいた点を、あらかじめ作成した図面(縮尺1/150)に記入し、また記入漏れを防ぐために、同時にビデオ撮影も実施した。

このようにして作成した観察マップ数は158例のSUS(奥行き50cm未満の「SUSなし」を含む)について、67シートとなっている^{注7)}。

(2) SUS内外に発生する行為

行動観察調査結果の分析は、SUS内部および前面街路上での歩行者の行為を、次の6つの行為に類型化し、行う。

① TAKE : SUS内外のワゴンや商品にとりつき、商品を手にとる。

② WATCH : ショーウィンドウやインフォメーションに見入る。

③ WAIT : SUS内外で人を待つ。待ち合わせの場合と店内で買い物をする人を外で待つケースとがある。

④ USE : 公共的な設置物(ストリートファニチュア)を利用する。

⑤ STOP : SUSの内外で立ち止まったり、立ち話をする。購買行動とは無関係な行為。

⑥ SEE : SUS内外のショーウィンドウや看板、ポスター等を眺めながら通り過ぎる。

次に図-1に示した行動観察マップをもとに、同じ行為類型同士を空間的にまとめ、行為の種類とその発生場所を、図中の凡例を用いて模式的に表現し、SUS内外の空間要素も、記号化した上で図示した『行為類型分析マップ』を作成する(図-2)。

図-2 行為類型分析マップ (1/400)

分析の次なる段階として、行為類型分析マップをもとに、『SUS領域マップ』を作成する。これは、商業活動に付随するプライベートな行為(TAKE, WATCH)、歩行者が店舗とは無関係に繰り広げるパブリックな行為(WAIT, STOP, USE, SEE)が、SUS内外の空間のどの位置で発生しているか、またそれがどのような空間要素(内部設置物、ストリートファニチュア等)と関係して生じているか、そして歩行動線にいかなる影響を与えているかといった観点から、SPu化・SPr化を判別し、SUS領域を推定し、表現するマップである(図-3)。

ここでの研究手法は、観察マップの分析を通じて、発生行為の量的関係を統計処理によって解明するというものではなく、個々の行動観察マップにおいて、空間要素(物)、歩行者の動線および行為の発生状況から行為分布領域を判定し、本来目に見えぬ概念である『SUS領域』を顕在化させようとするものである。したがって、領域図の作成においては、行為の量的な密度でSPu化・SPr化を判断するというのではなく、行為の発生した最大の範囲を領域としている。

図-3 SUS領域マップ (1/400)

図-4 SUS領域分析フロー

3. 行為からみた SUS 領域の形成

(1) SUS の形態類型と SP 化

まず、前報で類型化した SUS の空間形態と関連させて、行為を通して SUS と街路の間に形成される SUS 領域を上記の方法により解明する。

なお、SUS の空間形態は、形そのものだけでなく、ある程度の空間の具体的形態要素を一つのセットとして含んでいる。例えば、クローズ型はショーウィンドウ形式、セールス型はワゴン等の物販用具を使う形である。これらの分析結果は、各事例で全く同一のものとはなり得ないが、共通した傾向として生起する現象に着目しながら、パターンとして整理することができる。ここでの結果の表現は、こうしたパターンの代表的事例を範例として示したものである（縮尺はすべて 1/400）。

① SUS なし（奥行き 50 cm 未満の小規模 SUS を含む^{注8)}）

調査事例 18 のうち、何の行為も発生しないものが 9 例に達する。そのうち 1 例を除いて、商業系ファニチュア（ワゴン等）も存在しない何もない空間であり、歩行者は店舗の前を通り過ぎるだけである（図-5）。

図-5 SUSなし—商業系ファニチュアなし

行為がみられた 9 例のうち 7 例までは、店舗前面に商業系ファニチュアが設置されているが、TAKE や WATCH といった商業系行為が観察されたのは半数以下であり、街路上に立ち止まる（STOP）例が多くなっている。人待ち（WAIT）や歩きながら店舗方向を眺める行為（SEE）は全く見られない。店舗敷地内におけるプライベート行為の発生が少なくだけでなく、街路上で行われるパブリックな行為の生起も少なく、新たな SUS 領域は形成されない（図-6）。

図-6 SUSなし—商業系ファニチュアあり

② クローズ型

該当する 4 例すべてが、百貨店のショーウィンドウとなっており、立ち止まってウィンドウの中を見る行為（WATCH）がいくつか観察されているが、街路中央部の歩行者の視線を吸引するまでの効果はなく、パブリックな行為は生じにくい（図-7）。

図-7 クローズ型 SUS

③ セールス型

小規模な SUS 内から街路にはみ出すような形で、商業的設置物が存在するセールス型では、これらの商業系ファニチュアのまわりにとりつく行為として、TAKE や WATCH が多く観察される（17 例/20 例）。これらのプライベートな行為は、街路上にはみ出すことで、SPR 化を発生させ、STOP のようなパブリックな滞留型行為の発生も多くみられる。しかし、商業系設置物は、パブリック行為の侵入に対して同時に障害としても機能し、SPu 化は SUS の内部深くまでは生じない。実際、SUS 領域は、敷地と街路との境界部分からやや街路側に出た部分にとどまっている（図-8）。

図-8 セールス型 SUS

④ ポケット型

本報告における調査対象 SUS の約半数 (83) を占めるポケット型の SUS においては、その行為発生パターンは以下の4つに分けられる (図-9)。

図-9 ポケット型 SUS

セールス型と異なり、看板等の情報系ファニチュアは存在するものの商業系設置物は少ない。ポケット型においては、「行為なし」が全体の約 1/3 となっており、商業系のプライベートな行為の発生は、半数以下である。セールス型では、プライベートな商業行為が街路にはみ出しながら、滞留等のパブリック行為を誘引する形で、SUS 領域が形成されるのに対し、ポケット型では、商業系設置物に誘引されるパブリックな行為の発生は全体の 25 % にとどまる。しかし、前面部分にワゴン等が設置されていないことから、行為全体は SUS の奥深くにまで及び、滞留等の行為も発生し、小規模ながらも SPu 化が進行する。また、それに呼応する形で、前面街路上でのパブリック行為も活発化すると考えられる。一方、商業系のプライベートな行為と関係しない STOP や WAIT が 18 例も存在している事実は (図-9.D)、SUS 独自の誘引作用を示すものであろう。

⑤ 通路型

13 例存在する通路型 SUS は、奥行きに対し間口は総じて狭く、商業系設置物の設置率も低く、SUS 内のプライベートな行為の発生も少ない。他のパブリック性を

図-10 通路型 SUS

帯びた行為も含めて、行為の発生量そのものが少なく、SP 領域の形成が難しい (図-10)。

⑥ 占有型

6 例ある占有型の中規模 SUS では、上記小規模 SUS と比べて行為の発生量は一段と増加し、特に商品が SUS 内に置かれている場合に、それに誘引される TAKE や WATCH といったプライベート行為が増える。特に、中央部にまとめてアイランド型に商業系設置物が存在する形態では、各行為は SUS のかなり奥にまで広がっている (図-11)。街路上では、看板や商品を見たり、店内から出て行き先を決めるために立ち話をするといった行為の混在が見られ、店舗前面の狭い範囲で SPr 化が発生している。同時に SUS 内部で、パブリック行為としての STOP や WAIT が発生している。このことは、SUS 規模の増大によって SPr 化・SPu 化の相互作用が生じ始めることを意味し、そこがセールス型とは基本的に異なる点である。

図-11 中規模 SUS (占有型)

⑦ 共有型

中規模 SUS の中でも、共有型の場合はいくつかの店舗で SUS を共有する形態であるために、占有型と比べて商業系および情報系の設置物が少なくなっており、TAKE, WATCH の数はセールス型等の小規模 SUS に比べても少なく、SUS 内のプライベート性はそれほど高いものではない。したがって、小規模 SUS でみたような商業系ファニチュアのはみ出しによる前面街路における SPr 化は発生せず、境界部分の曖昧化も生じない。しかし、SUS そのものは逆にパブリック性を帯び、STOP や WAIT を SUS 内部に誘引し (4 例/6 例)、

図-12 中規模 SUS (共有型)

SPu化は確実に生起している(図-12)。

⑧ 複合型

複合型の中規模 SUS は 7 例存在しているが、そのうち商品などの設置物がほとんど見られず、SUS の奥の方まで植栽やビデオ等の非商業的設置物が置かれているケースでは、SUS 内のいたるところで人待ちや立ち話等のパブリック行為がみられ、SPu化は SUS 全体に広がることとなる。また、街路中央でも同様の行為が多くみられ、SUS 効果とも言うべき対岸壁や街路樹まわりでの WAIT も発生しており、SUS 領域は街路対岸部分までを含む広い範囲に拡大している(図-13)。

図-13 中規模 SUS (複合型—非商業系設置物)

複合型 SUS で、アイランド的に一か所にまとめて商品などが置かれ全体的には設置物の少ないタイプ(3 例)では、SUS 内のプライベート行為は WATCH を中心にしてかなりの数が観察されており、それは SUS の前面の SPr 化を促すこととなる。これに誘引される形で SUS 内を眺める行為や街路樹付近で人待ち、立ち話といったパブリック行為が生じており、これは相互作用として SUS 内への SPu 化が進むことを意味する。概して、小規模 SUS と比較して、滞留型のパブリック行為の発生が非常に高くなっているのが特徴的である(図-14)。

⑨ 大規模型

大規模 SUS は、今回の調査においては 2 例しか存在していないが^{注9)}、そのうち、内部の広い範囲が商業的に使われている場合には、その周囲で商業的なプライ

図-14 中規模 SUS (複合型—商業系設置物)

ベート行為が多数発生している。SUS 規模が大きいこともあり、敷地からはみ出す形で商業系ファニチュアが置かれることが少なく、SPr 化の発生は見られない。街路前面部分ではパブリックな行為が見られるものの、SUS 内部への SPu 化の浸透はそれほど強いものとは言えない。したがって、SUS 効果としての街路対岸部分への SUS 領域の拡大は生じない。この点は SUS と街路との間に段差があるため、領域の広がりが制約されることも影響していると考えられる(図-15)。

図-15 大規模 SUS—商業系設置物多数

大規模タイプでも、休憩系のシンボリックな設置物(噴水・オブジェ等)がある場合には、中規模タイプで見られたように、SPu 化はシンボリックな設置物の周囲のみな

図-16 大規模 SUS—公共系設置物あり

らず SUS 内全体に広がり、SUS 空間はある意味でパブリック化することとなる。そのことは、街路部分と SUS とがパブリックな空間として接続することを意味しており、街路対岸においていくつかの行為 (WAIT, STOP, SEE) も観察され、街路全体の広い範囲で SUS 効果と言える行為が発生している。このような現象は、「SUS 領域の外延化」と見なせよう (図-16)。

(2) 空間構成要素と SP 化

上で述べた SUS の 9 つの形態類型を基本に、本調査によって抽出された SUS 内の空間構成要素 (内部条件) および街路上の設置物 (外部条件) に対してより詳細な検討を加え、発生行為との関係を分析する。

内部条件としては、①商業系 (ショーウインドウ、商品・セールスワゴン等)、②情報系 (看板、案内板等)、③公共系 (公衆電話、ビデオ等)、また外部条件としては、①修景系 (植栽、モニュメント等)、②休憩・衛生系 (ベンチ、テーブル、灰皿等) を取り上げている。

表-1 は、観察調査結果をもとに、SUS の形態類型別に、上にあげた空間構成要素の有無と SUS 内部および前面街路上における行為の発生の有無とをまとめたものである。

まず商業系の内部条件のうち、ショーウインドウの場合は、SUS がなく直接街路に面しているタイプでは、ショーウインドウの存在が歩行者の行為とはほとんど関係なく (8 例のうち行為がみられたのは、セールスワゴンが併置された SUS 1 例のみである)、クローズ型になるとようやく動線は SUS 内に侵入することとなる。セールス型の場合は、前面におかれた多様な商業系ファニチュアが存在が大きく、ショーウインドウの影響力は薄いものと考えられるが、ファニチュアの少ないポケット型の場合、約半数の 42 例でショーウインドウは存在しているが、そのうち 27 例で SEE, STOP 等のパブリックな行為が発生し、逆にこれらの行為が発生するポケット型 SUS のうち、73 % がショーウインドウを持っている。小規模な SUS であっても、ショーウインドウまわりでパブリックな行為が発生することとなり、

図-17 ショーウインドウと発生行為

SUS 領域は小規模ながら SUS 前面に形成される (図-17)。

一方、SUS 内のファニチュアのうち最も数多くみられる商品 (ハンガー等)、セールスワゴン (図中、□) については、直接的に TAKE や WATCH の発生との関係が強く、「SUS なし」17 例のうち行為のあった 8 例中 6 例までが、店舗前面にはみ出す形で設置されている商業系ファニチュアにより人の行為を誘引し、歩行者動線が影響を受けることとなる。また、商業系設置物が多いセールス型 SUS の場合、当然のことながら商業的なプライベート行為は数多く発生するが、前面街路上に滞留等のパブリック行為が発生するケース (10 例) は、すべて商業系ファニチュアが街路にはみ出すほどに多量に設置されている SUS である。

また、中規模 SUS の場合、商業系設置物が最も多く存在している占有型では、それらはすべてアイランド型に設置されており、TAKE や WATCH の数が増加するだけでなく、発生場所も SUS 全体に広がることとなり、奥深くまで建物非利用者が入り込む例がみられ、SUS 内への SPu 化の浸透に商業系ファニチュアが果たす役割は、やはり見逃せないものがある (図-18)。

次に、看板等の情報系内部条件 (図中、■) が小規

図-18 商業系ファニチュアと発生行為 (アイランド型)

表-1 SUS タイプ別空間構成要素と発生行為

	形態類型	SUSなし	クローズ	セールス	ポケット	占有	共有	複合	通路	大規模	計
	SUS実数	17	4	20	83	6	6	7	13	2	158
ショーウインドウ	設置SUS	8	4	8	42	4	1	1	2	0	70
	Pr行為	1	2	6	22	3	1	1	2	0	38
	Pu行為	0	2	4	27	4	0	1	2	0	40
商業系ファニチュア	設置SUS	7	0	20	40	5	3	3	6	2	86
	Pr行為	4	0	17	24	5	2	3	4	2	61
	Pu行為	2	0	14	17	5	3	3	3	2	49
情報系ファニチュア	設置SUS	2	0	6	21	2	5	5	5	0	46
	Pr行為	1	0	6	11	2	3	5	3	0	31
	Pu行為	1	0	6	10	2	5	5	3	0	32
植栽	設置SUS	6	0	5	27	0	3	4	3	0	48
	Pr行為	1	0	3	10	0	2	4	1	0	21
	Pu行為	1	0	2	8	0	3	4	1	0	19
休憩系ファニチュア	設置SUS	0	0	0	14	0	1	2	1	0	18
	Pr行為	0	0	0	10	0	1	2	0	0	13
	Pu行為	0	0	0	9	0	1	2	1	0	13

模 SUS 内に存在する場合には、SUS 両脇の出隅部分に設置されるケースがほとんどであり (21 例/29 例)、歩行者の動線そのものに影響を与えるには至っていない。

中規模 SUS では、本来なら通行上の障害となるような中央付近でも、情報系ファニチュアまわりで様々な行為が観察されており、しかもそこでは商業系ファニチュアと異なり、人待ちや立ち話 (WAIT, STOP) が発生している。SUS と街路との境界部分に一種のパブリック・スポットが形成され、SPu 化が進行している (図-19)。

図-19 情報系ファニチュアと発生行為

一方、街路上の構成要素 (外部条件) のうち修景系の街路樹、植栽について分析すると、SUS なし・小規模 SUS の場合に、前面街路上の植栽付近では滞留型の行為はほとんど見られないが (行為が発生している事例は、SUS なしで 1/6、ポケット型で 8/27); 中規模 SUS の前面の場合には、共有型、複合型ともすべての事例で人待ち (WAIT) や立ち話 (STOP) が見られ、大規模型になると街路中央よりも対岸に近い位置の街路樹周囲であっても、行為がみられるケースが存在する (図-20, 21)。

図-20 街路上の植栽と発生行為 (小規模 SUS)

図-21 街路上の植栽と発生行為 (中規模 SUS)

また、ベンチ、テーブルの休憩系ファニチュアやごみ箱・灰皿といった衛生系ファニチュアは、小規模 SUS の場合はポケット型の前面街路上でのみ観察されているが、14 例中 4 例が利用されているのみである。中規模

SUS のうち複合型や、大規模 SUS では、SUS 内に休憩系ファニチュアが存在していることが多いため、前面街路上にこれらのファニチュアはそれほど見られないが、すべての事例で利用は活発であり、SUS 領域の外延化に寄与することとなっている (図-22)。

図-22 休憩系ファニチュア (路上) と発生行為

4. SUS 領域の形成および外延化のメカニズム

これまでの SUS と街路上に生じた行為と SUS の空間形態や構成要素との関連から、SUS 領域形成のメカニズムとその意味について考えてみよう。我々が作成した『SUS 領域マップ』は、歩行者の行為内容とその発生位置および歩行動線の分析により、SPu 化および SPr 化を判別し図中に記入したものであり、SUS 領域そのものを図示したものではない。SUS 領域は、固定されたものではなく、時間とともに変化するものであり、ここでは模式的な表現を用いて、SUS 領域の形成メカニズムについて分析するものである。SUS 領域の形成に関しては、次のような傾向が認められた。

- ① SUS なしの場合、SUS 領域は形成されない。
- ② 小規模 SUS になると、ワゴン等の商業系ファニチュアのはみ出しによる SPr 化のみが発生し、街路との境界部分に SUS 領域が微かに形成される。
- ③ SUS が中規模になると、占有型に見られるような商業系ファニチュアの広範囲にわたる設置は、プライベート行為を促進し、店舗前面においては TAKE や WATCH 等の商業的行為が商業系ファニチュアや情報系ファニチュアのはみ出しに伴って発生することとなる。『公的領域の内部化』としての SPr 化である。これらの行為は、SUS 規模の拡大にともなう多く観察されることとなり、街路上のパブリック行為 (STOP, WAIT) を誘引しながら SUS 領域は街路中央に向かって拡大していくが、SUS 内部においては SPu 化は起こりにくい。
- ④ 同様の中規模 SUS で、商業系の設置物が少なくなると、SUS 内部のかなり奥まで滞留行為がみられることとなり SPu 化が生じ、これに呼応するような形で、SUS 前面の街路上でのパブリック行為は活発化し、SUS 領域の外延化は③を上回ることとなる。

㊦ 中規模 SUS の共有型にみられるように、㊣や㊤のような商業系設置物がそれほど置かれていない場合は、公共的な設置物（ベンチ等）の付近で、『私的領域の外延化』が進み、SUS はパブリック性を帯び、SPu 化が生じる。しかし、はみ出しとしての SPr 化はそれほど見られず、SPr 化が誘発するはずの路上のパブリック行為は生じにくく、㊣や㊤のような SUS 領域の拡大は見られない。

㊦ 中規模 SUS で複合型に見られるような商業系ファニチュアの設置と、ビデオ・電話ボックス等の公共系設置物との共存形態では、SUS 内部の SPu 化は促進され、それが私的領域のはみ出しを誘発し、街路部分での SPr 化が活発となり、SUS 自体が前面街路のかなり中心部まで拡大したような形をとる。

㊣ 中規模 SUS で、商業系設置物がアイランド型に一か所にまとめられ空間的余裕ができると、SUS の奥深くまでパブリック行為の侵入を受容、誘引する。それによって SUS 内全域に広がる SPu 化に誘発される形で、SUS 領域の外延化が進む。すなわち SUS 設置による店舗前面敷地の SPu 化の進行とそれとともなう公私境界部分の曖昧化が、公的領域への商業的行為（プライベート）のはみ出しを、許容、促進する形となり、街路上のパブリック行為を活性化しながら、SUS 領域が拡大することとなり、㊦に比べて大きな SUS 領域が形成される。

㊨ 大規模型 SUS になると、公共系の設置物（電話・

噴水等）や休憩系ファニチュアが SUS 内に設置されることが多くなる。これらは、商業的意図が背後にあるとはいえ、外部の不特定多数の人々に対して利便を提供することとなり、それに呼応する形で、SUS 内の行為は活発化する。SUS 規模の拡大と、ファニチュアの設置形態は、公私境界を変革させ、SPu 化は強化され私的領域の奥に向かって進み、SUS は公的空間として前面街路と一体化することとなる。待ち合わせ（WAIT）や立ち話（STOP）が SUS の対岸部分で発生することから、SUS と前面街路との心理的な一体化が歩行者の行動パターンに影響を与え、SUS 効果を生起させている。このように SUS 領域の外延化は街路を巻き込む形で対岸部分にまで進み、終結する。

すなわち、SUS 設置者側が SPu 化を受容することが同時に、公的領域としての街路における SUS 領域の外延化の可能性をより深め、それ故に、設置者側に反対給付としてのメリットが与えられると解釈できよう。

5. まとめ

本報告は、SUS の形態類型とその形成要因について論じた前報に引き続き、SUS の内部および前面街路上における人々の行為を分析することにより、私的領域としての SUS が公的領域との相互作用によって、都市において不特定多数の人々にとってのオープンスペースとしての役割を担う可能性を論じたものである。

SUS の規模とそれに対応する形態類型が、SUS 内の設置物の有無およびその位置、前面街路上のストリートファニチュアの配置と相互に関連しながら、行為の発生状況に影響を与えることとなり、街路上の SPr 化、SUS 内部での SPu 化を進め、SUS 領域が形成されることとなる。また、前面街路上にも、その動きは飛び火することとなり、パブリック行為が誘発されるなどの SUS 効果が生じ、SUS 領域の外延化は街路自体の活性化にも影響するものと考えられる。

次報では、SUS における行為の場所性の検討により中規模以上の SUS の分析を進め、SUS 領域形成のメカニズムと領域形成要因との関係を詳細に解明し、街路評価における SUS の役割を検討する。

なお本報告は、小室宏二氏（現いわき市）、山室 真氏（現フジタ工業）、佐藤武志氏（現三菱地所）、鳥居立弥氏（現 NKK）、広瀬浩二君（大学院生）をはじめとする研究室の多くのスタッフによる共同研究の一部であり、深く感謝の意を表するものである。

注

- 1) 我々が研究の対象とする SUS に関する論文としては、前報（「Small-Urban-Spaces の形態と形成要因」、日本建築学会計画系論文報告集、No. 424、1991 年）に掲載した

図-23 SUS 領域形成メカニズム

ように、直接対象の重なるものは存在していない。しかし、研究のアプローチ的に、また対象とする空間の性格上共通する研究はいくつか発表されている。公開空地において人々の行動に着目した論文としては、沖塩莊一郎ほか：公開空地等の実態に関する研究—その1. 滞留と通り抜け利用—（日本建築学会大会学術講演梗概集，1983年），小林英嗣ほか：公開空地の利用者の行動と意識（日本建築学会大会学術講演梗概集，1988年），また景観的側面に視点を向けたものとしては，鳴海邦碩ほか：建築物景観の整備についての一考察（日本建築学会大会学術講演梗概集，1989年），安田丑作ほか：都市景観形成手法としての総合設計制度とその評価に関する研究（日本都市計画学会学術研究論文集，1988年）等が存在している。

- 2) 近江 隆，北原啓司：「Small-Urban-Spacesの形態と形成要因」；日本建築学会計画系論文報告集，No. 424，1991年6月
- 3) 近江 隆，北原啓司，ほか：既成市街地におけるSP領域の形成に関する研究；日本建築学会大会学術講演梗概集，1988年10月
- 4) Public Streets for Public Use (A VAN NOSTRAND DREIN HOLD BOOK, 1987) の中では，M. Francisらによって，様々な行動観察マップが紹介されている。
- 5) SUS効果；SUSが存在することにより，人待ち，立ち話などのパブリック行為が街路上に誘引され，街路に賑わいを創り出す効果。その発生場所は，SUSと街路とが接する部分から，SUS対岸部に及ぶケースも見られる。
- 6) 各商店街における調査状況および仙台市6商店街の概要については，前報において表—1および表—2に示してある。
- 7) 各シート（縮尺1/150）には，それぞれ6～8程度のSUSが含まれており，また，一番町一番街商店街および一番町4丁目商店街においては，調査日時を変えて同一SUSにおいて2度の行為観察を実施している。2度の調査において作成された観察マップは，調査時点の特殊性を捨象すべく実施したが，ほとんどのSUSにおいて調査日時に関係なくほぼ同様の行為が観察されており，分析においては，どのSUSにおいても2回目の調査結果を用いている。
- 8) 50 cm未満の壁面後退については，実際に外見上は，ほとんど凹み空間としてのSUSと判別できるものではなく，また，そこで行われる行為も，壁面に密着する形で立つ

ような行為しか見られず，ほとんどの場合，街路上の行為の延長として発生しているに過ぎないものと見なすことができる。民法においても（第234条），敷地境界線からの距離は50 cm以上とされており，空間形態と発生行為との関係性を見る本編の目的から考えて，50 cmに満たないものについては「SUSなし」の範疇に含めることとした。

- 9) 仙台市における調査では，中規模以上のSUSの例数が少なく，昭和63年10月3日～7日まで実施した横浜および吉祥寺市における調査（調査No.5）において，16例の大規模SUSを抽出して，仙台における調査事例と併せて空間構成要素との関係性を，詳細に分析しており，次稿で報告する予定である。

本論文に関連する既発表論文

- 1) 近江 隆，北原啓司：「SUS-Small Urban Spaces」研究の課題と方法，日本建築学会東北支部研究報告集，第50号，pp.25～28，1987年11月
- 2) 近江 隆，北原啓司：SUS空間のSP化とSUS効果の実態，日本建築学会東北支部研究報告集，第50号，pp.29～32，1987年11月
- 3) 近江 隆，北原啓司，小室宏二，佐藤武志：SUS空間の形態類型と街路評価，日本建築学会東北支部研究報告集，第51号，pp.149～152，1988年6月
- 4) 近江 隆，北原啓司，小室宏二，佐藤武志：SUS領域形成の要因，日本建築学会東北支部研究報告集，第51号，pp.153～156，1988年6月
- 5) 近江 隆，北原啓司，佐藤武志，鳥居立弥：SUS空間の形態類型，日本建築学会東北支部研究報告集，第52号，pp.131～134，1989年6月
- 6) 近江 隆，北原啓司，佐藤武志，鳥居立弥：SUSにおける行為発生メカニズム，日本建築学会東北支部研究報告集，第52号，pp.135～138，1989年6月
- 7) 近江 隆，北原啓司，広瀬浩二，鳥居立弥：SUSの成立に及ぼす建物・街路の影響，日本建築学会東北支部研究報告集，第53号，pp.71～74，1990年6月
- 8) 日本建築学会大会学術講演梗概集において1988，1989，1990，1991年に，すでに7編の報告をしており，参照されたい。

（1991年6月10日原稿受理，1991年12月11日採用決定）